児童から高齢者まで集合
鎌倉クリーン大作戦

鎌倉駅西口や市役所周辺の一斉清掃が好天の3月22日に行われ、市民ら約80人が参加した＝写真。

コロナ禍で、ボランティア活動や市民活動を中断している中高年や高齢者が多いので、その人たちに活動の機会をつくろうと、鎌倉市観光協会が、市社会福祉協議会・市市民活動センターと協力し、活動を呼びかけた。

好天の下、午前10時に鎌倉駅西口時計台広場に集合した参加者たちは説明のあと、軍手やトングでゴミを拾い、落葉をビニール袋につめこんだ。

鎌倉ＹＭＣＡの児童や、サッカーチームの若者、市民活動団体、JR東日本や江ノ電の職員、周辺企業の社員など幅広い年齢層が参加した。障がいのある方の掃除モデルとして「お掃除車イス」も出動した。

市観光協会の大津定博専務理事は「予想以上に参加者が集まった。これをきっかけに家に籠りがちの人も自信を取り戻して、活動を再開してもらえればうれしい。今後も定期的に活動を行っていきたい」と話している。

ヨットで海の魅力発信
世界一周レース完走の白石さん

ヨットで最も過酷とされる単独無寄港無補給世界一周レース「ヴァンデ・グローブ」へ2度目の挑戦を行い、完走を果たした鎌倉市在住の白石康次郎さんが、3月22日、松尾崇鎌倉市長を表敬訪問した。

昨年11月8日にスタートし、94日21時間32分56秒のタイムで2月11日にゴール。レース7日目にメインセールを破損し自分で修理した。全33艇中16位、アジア人では初の快挙を成し遂げた。

白石さんは、小さいころ、鎌倉の海を見ていて世界一周したいと思ったという。レース中はほとんど寝なかったことなどを話し、「今回これだけのチームを持てたのはラッキーだった」とチームを称えた。

白石さんは横浜国大附属鎌倉小・中学校の卒業生で、レース前に同校児童たちから応援ビデオや応援旗が贈られた。「応援ビデオを何十回みたかわからない」と白石さんは、同席していた、当時6年生で制作意向を市長に語った。

『中世鎌倉盛衰草紙』
―東国首都鎌倉の成立と展開―

峰岸純夫

私の人生でたぶん最後の出版物と思われる著書が昨年の8月に刊行された。おおむね原稿を提出したが、編集部が徹底的に手を入れ、写真や図を含めて全体構成を行い、一般読者に読みやすい図書となった。

とりわけ、鎌倉在住の画家・矢野元晴氏（鎌倉で画塾を開く）が、水彩印象画法という一般的には水彩画と言われる独特の図法で表紙や文中の挿絵を描いて下さった。表紙の絵は、本書のテーマである守護領国体制（鎌倉府体制）下の在地領主が戦国領主へ、そして戦国大名へと移行する時代の中にあって唯一旧体制の考え方を継承した上杉謙信が関東管領として鎌倉の鶴岡八幡宮寺に詣でた様子をイメージしたものである。

この著書において私が主張したいことは、中世の鎌倉は長大な日本列島の東国の首都であり、西国の首都京都に並ぶものであった。その歴史は教科書などでもっときちんと位置づけられるべきものと考えている。

そして、この地における内乱は歴史上重要な位置にあり、とりわけ15世紀後半の享徳の乱は、京都の応仁の乱をも誘発した大事件である。なお、この「享徳の乱」の命名者は私で、現在では教科書などに記載されるようになった。この間に鎌倉で活躍するのは執権北条氏だけではなく、有力御家人で、上野・武蔵両国に勢力を有する守護大名の安達氏であったのでその歴史を強調している。

さらに、幕府や南北朝以後の鎌倉府のもとで、武士たちの信仰する仏教寺院が多く建設されて鎌倉は宗教都市になって今日に及んでいる。この宗教都市について鶴岡八幡宮寺を中心に記述した。そして中世では寺院と神社は一体化して明治以降のように神仏分離ではないことを強調している。

以上、中世東国史研究者である自分としても満足すべき著作と思うので、多くの読者に批判的にも見ていただきたいと思っている。

本は2000円（税別）、歴史探訪社刊☎0467・55・8270

※表紙の絵は、鎌倉朝日1月号の1面を飾りました。

「光明寺ソメイヨシノ」＝写真集から

原田寛作品集
『古都櫻』
3月に写真展も

桜開花の便りが聞かれる3月下旬、原田寛作品集『古都櫻』出版記念写真展が鎌倉市生涯学習センターで開かれた。

鎌倉在住の写真家・原田寛さん（72）は、京都・奈良・鎌倉の日本三大古都に魅せられ40年以上にわたって「古都グラファー」として活動を続けてきた。2019年に『古都櫻』を上梓し、19年に東京（原宿）と京都で出版記念写真展を、昨年奈良で巡回展を開き、その最終章として開催された鎌倉展で、奈良展での展示作品に鎌倉の作品を追加展示した。

原田さんは、「花々の中でも、古から日本人はとりわけ桜に思いを寄せてきた。それぞれの古都の微妙な違いを桜の花を切り口として感じていただければ」と述べている。

『古都櫻』2400円（税別）日本写真企画刊☎03・3551・2643

文学つれづれ　187
吉川英治『宮本武蔵』（七）

赤羽根龍夫

武蔵は法典ケ原で養子・伊織との開墾以来、剣の道を政治の世界に応用して、世を治めることができないかという考えを温めていた。

干拓事業を終えた武蔵は再び江戸に戻り、小次郎に斬られた軍学者・北条安房守（あわのかみ）の息子を助けた縁で沢庵和尚たちの会合に招かれる。

武蔵は座敷の手前で殺気を感じて立ち止まる。襖の陰に隠れていたのは武蔵の実力を試そうと潜んでいた柳生宗矩（むねのり）であった。武蔵の剣の実力を改めて思い知らされた安房守や宗矩は、武蔵を将軍家の兵法師範に推挙することにした。

柳生十兵衛像＝『柳生新陰流』赤羽根龍夫著（剣道日本）

しかし将軍家への仕官はお杉婆の幕閣などへの度を越した中傷・讒言で取りやめになった。武蔵はむしろそれを喜び、剣の道を究めようと江戸城の襖（ふすま）に武蔵野の絵を描き残し、世話になった北条安房守への書面をしたためる。

安房守は、さては仕官できなかったことを嘆く手紙かと披（ひら）いてみると歌が書いてあった。

なかなかに人里近くなりにけり　あまりに山の奥をたずねて

吉川英治は『随筆宮本武蔵』でこの歌を十兵衛自作の歌としたうえで、

私は、十兵衛のその歌と、武蔵が自分の肖像画のうえに自題した「理もわけも尽して後は月明を知らぬむかしの無一物なり」が、最も意味が深いし、歌としても優れているようで好きである。

十兵衛について、

気性もすぐれ剣も鋭かったらしいが、月の抄の序文でもわかるように文章を書くと典雅だし、その筆蹟なども優雅で見事である。

また武蔵については、

宮本武蔵は、私の好きな古人のひとりである。剣という秋霜（しゅうそう）の（鋭く冷たい）気が、その人の全部かのように刺々しく思われて来たが、彼の仮名文字をようく見つめているとわかる。あんな優雅な匂いやさしさ細やかさ、虚淡な美を剣を持つ指の先から書きなす人が、過去にも幾人とあったろうか。

吉川英治が十兵衛の歌としている「なかなかに」の歌は、すでに1605年（慶長10）、若き武蔵が最初の兵法書『兵道鏡』に空海の歌として引用しているものである。

この歌は作者不明であるが、室町時代の法華宗を再興した日隆上人の教義書のなかに「古歌」として引用され、江戸時代では武術の極意歌として各書で使われている歌である。興味深いので引用しておこう。武蔵は剣の道に特別な極意はないとして、

大師、高野山奥の院を建てんと、山深く分け入りて思えば、いまだ浅し。奥の院となれば、なお深く尋ねゆき、行きて見れば、また家村近く見ゆる。さて云えり、

として「なかなかに」の歌を引用している。剣の奥義と入口は同じであるという意味である。

私は吉川英治の武蔵像は十兵衛像によって造形されていると思う。

徳川家康によって徳川家の御家流とされた柳生新陰流は徳川幕府安泰のために、剣を「人を切る道具」であることを捨て、活人剣を求めた。十兵衛は13歳から家光の稽古相手を勤めた、20歳で勘気を受けて柳生の里に籠り、12年間剣の修行と理論研究に励んだ。

一方、武蔵は24歳の『兵道鏡』の最後に「円明流天下一」と署名し、晩年に書いた『五輪書』で「敵に勝つ」剣の理を求め、墓碑銘にも「兵法天下一」と刻んであるように、生涯、敵に勝つ剣の技と理を求めた。そこに武蔵の偉大さがある。

（神奈川歯科大名誉教授）

終の棲み家を考える　84　値段は正直〈木枠編〉

家をつくる時、窓や建具は本体の柱や体力のある壁にしっかり固定されています。綺麗に仕上げる為に木材などを加工して窓枠や建具枠を作り納めています。

費用を抑えるために材料を薄くしたり、枠を付けずにボードで代用していたり、また樹脂に木の粉を混ぜて紙に杢目を印刷して貼り付けて木の様に見せている物もあります。

扉も集成材に印刷した紙を張り付けて本物の木の板の様に見せている物もあります。性能的に問題はありませんがニセ物感はぬぐえず、趣に欠けてしまいます。家を構成している材料は経年することで趣が増していきます、ある部分だけ真新しくピカピカしていたら違和感があります。銀行から多額のお金を借りてやっと手に入れたマイホームの現実がここにあります。

日本の住宅の平均建て替え年数が30年程ですが、奈良の法隆寺は建立されて1400年、鎌倉の神社・仏閣は何百年も経過しているものが殆どです。住宅を大量販売している会社の基準を夢のマイホームを求めてたどり着いた方に当てはめるのは問題です。合板・ベニア・集成材・合成樹脂・ビニールクロスで固めた家はそろそろ卒業です。人が安心して幸せに暮らせる家を目指し、本物の材料を使い手仕事で仕上げていく家を手に入れて下さい。貴方のそばにも希望を叶えてくれる会社があるはずです。

■日向建設　鎌倉市大船1―15―3　☎0467・47・5454　http://www.hyuga.co.jp

明治37年創立
学校法人　鎌倉女学院
中学校・高等学校
心身ともに健康で
国際性豊かな人間教育
〒248-0014 鎌倉市由比ガ浜2丁目10番4号
電話（0467）25-2100（代表）

ゆみ中医漢方クリニック
漢方婦人科
漢方思春期婦人科
漢方不妊治療婦人科
診療時間
完全予約制
午前：9:00～11:30（火～土）
住所：逗子市小坪1－18－4
TEL：0467-22-9184
http://www5e.biglobe.ne.jp/~yumicyui/
各種健保扱・自費診療有

訪問診療・往診
医）湘南友和会
さとうクリニック
認知症対応　訪問看護
訪問介護　癌末期管理
在宅看取り　緊急時病院連携
〒247-0061 鎌倉市台5-8-29
TEL 0467-43-5220